



ワスレナグサ

67 編は詠み人知らずですが **指揮者によって。伴奏付き。賛歌。歌** とありますので、楽器を演奏する人々、歌う人々が指揮者を見ながら、ぴったりと息の合った賛美を捧げたことでしょう。

詩人は **神がわたしたちを憐れみ、祝福し／御顔の輝きを／わたしたちに向けてくださいますように**〔セラ と、神の恵みをひたすらに求めながら賛美を始めています。

次の **あなたの道をこの地が知り／御救いをすべての民が知るために。**(67:3) という言葉は興味深いです。

**この地** とはイスラエルの民の住む大地を意味するでしょう。その土地が神の道を知るとは、神の憐れみ、祝福、光が **この地** にも与えられていることを **この地** が知る。それはとりもなおさず大地が神の恵みに応えて収穫の実を結ぶということです。そのことによってイスラエルの民は神の救いを味わうのだということでしょう。

その後 **神よ、すべての民が／あなたに感謝をささげますように。すべての民が、こぞって／あなたに感謝をささげますように。**(67:4) と、感極まったように、繰り返して感謝を捧げています。

次の連は **諸国の民が喜び祝い、喜び歌いますように／あなたがすべての民を公平に裁き／この地において諸国の民を導かれることを。**〔セラ (67:5) と、諸国の民、即ちイスラエルの民だけではなく、異邦人も喜び、と歌います。彼らも同じ大地に、共に住んでいるのです。そして、神の前ですべての民が公平に裁かれ、公正、平等に神の恵みを受け、感謝しているのです。これほど理想的なことはありません。そして、次の連は「くりかえし」となり、再び、同じ言葉で賛美が捧げられています。

最後の連で、詩人が **この地** という言葉を発した理由が示されるのです。 **大地は作物を実らせました。神、わたしたちの神が／わたしたちを祝福してくださいように。神がわたしたちを祝福してくださいように。地の果てに至るまで／すべてのものが神を畏れ敬いますように。**(67:7) と、豊かな収穫を感謝し、神に賛美を捧げています。すべての人々に、豊かな地の恵みを、地の果てに至るまで与えられますようにと歌っています。ただ収穫を感謝するだけではなく、大地とそこに生きるすべての人々へ神の恵みが等しく与えられることを願っています。現在、経済格差による貧困、飢餓にあえぐ人々の姿が報道されています。67 編は今に至るまで切実な祈りといえるでしょう。

イスラエルの民は第 7 の月(西暦では 9/10 月)15 日から 7 日間仮庵祭を祝います。この時の礼拝で賛美された詩編ではないでしょうか。

『讚美歌 21』には 67 編をそのまま歌う 139「神が私たちが憐れみ」の讚詠があります。その他、6 曲が関連づけられていますが、389「み神をたたえよ」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-09-15> がシベリウス作曲の讚美歌であるために魅かれます。ジュネーブ詩編歌はリコーダーの美しい曲ですが、YOUTUBE の画像である祭壇画が「原罪、裁き、十字架と復活による赦し」であり、67 篇の内容とあってないような気がします。 [Psalm 67 Genevan Psalter - setting by Claude Goudimel - YouTube](#)